



そば御膳献立(二例)

- 小鉢 桜豆腐
- 葉皿 おから
- 煮物 大豆ウインナー
- 箱 田舎蕎麦 桜蕎麦
- 蕎麦 とうろ汁
- 揚物 季節の山菜
- 飯 雑穀ごはん
- 香 酢生姜 芽蓮根
- 煮物 新じゃがいも
- 蓮根の蒸し餛飩
- たけのこ 若芽
- ふきのとう佃煮

特別精進料理「そば御膳」 1,800円  
(11:00より受付開始)

\*料理の内容は季節や仕入れにより変わります

本年も毎年ご好評をいただいております。「そば御膳」を実施しており、ご予約無しでご案内しております。

大部屋にて版画家の井堂雅夫さんによる、特別展示とともに新緑・青葉の時期の食材を生かした料理を気軽に味わっていただけます。食材に限りがありますので早めの来山をお願いいたします。

期間 七月十五日(金)まで  
営業日 平日のみ(団体予約多数の場合は実施しないこともあります)  
価格 千八百円

※ただし、四月二十九日(土)～五月八日(日)の大型連休期間につきましては、価格や実施日が変更になる場合もありますので事前にお問い合わせ下さい。

### 特別精進料理 「そば御膳」のお知らせ

## 東日本大震災殉難者供養・被災地復興を祈る 東北霊場(宮城県)巡礼の旅

ご 旅 程	
5月30日(月)	東京駅[10:36発予定] (新幹線/昼食お弁当) 一ノ関駅 ー 観音寺[身代不動尊](東北三十六不動尊霊場25番) ー 気仙沼プラザホテル(泊)
5月31日(火)	ホテル ー 大徳寺[横山不動尊](26番) ー 石巻市内(震災慰霊・昼食) ー 松景院[神寺不動尊](27番) ー 瑞巖寺五大堂[五大明王](28番) ー ホテル松島大観荘(泊)
6月1日(水)	ホテル ー 陸奥国分寺 ー 西光寺[秋保大滝不動尊](29番) ー 仙台市内(昼食) ー 愛敬院[駒場滝不動尊](30番) ー 白石蔵王駅 (新幹線) ー 東京駅[19:48着]

期 日 平成28年5月30日(月)～平成28年6月1日(水) 2泊3日  
参加費 お一人様 97,000円  
定 員 35名(最少催行人数25名)  
集合場所 東京駅 午前10時00分頃予定(詳しい場所は結団式時にご案内します)

- お申込みの方は、葉書に、住所・氏名・年齢(または生年月日)・電話番号をご記入の上、京王観光(株)八王子支店までご郵送ください。
- お申込み後に取り消しをされる場合は、5月10日より京王観光所定の取消料金を申し受けます。

巡礼企画・主催  
大本山 高尾山 薬王院  
「東北霊場(宮城県)巡礼の旅」係 担当:堀江・杉山  
〒193-8686 八王子市高尾町2177  
TEL.042-661-1115 FAX 042-664-1199

お申し込みは(旅行企画・実施)【受注型企画旅行】  
京王観光株式会社 八王子支店  
担当:福島  
〒192-0046 八王子市明神町3-26-10 土屋ビル3F  
TEL 042-631-4721 FAX 042-631-8371

### 第七箇度 相州大山登拝修行の御案内

本年も当山恒例の相州大山登拝修行を左記の通り執行致します。皆様お誘い合わせの上、一人でも多くのご参加を、心よりお待ちしております。

日 時 五月十四日(土) 十五日(日)※一泊二日  
集合場所 高尾山麓不動院  
参加費 三万円(往復バス代、保険代、宿泊費、その他諸費用含)

行 程 一日目 高尾山内にて前行  
二日目 大山登拝修行・阿夫利神社  
下社にて正式参拝

申込方法 住所・氏名・生年月日・年令・連絡先・緊急連絡先を明記の上  
〒一九三―八六八六 八王子市高尾町二二七七  
「大本山高尾山薬王院大山登拝事務局」宛にハガキでお申込下さい。

申込締切 四月二十八日(木) 必着  
※参加申込ハガキが届き次第、請書、行程表、その他詳細をお送り致します。  
お問合せ・大本山高尾山薬王院大山登拝事務局  
TEL〇四二―六六一―一一一五(代)

### 高尾山の昆虫

#### スギタニルリシジミ



春に出現する蝶に、スギタニルリシジミという可憐なシジミチョウがいて、やや青みを帯びた色彩を持つ仲間が多い中、暗青色を通り越して、くすんだ灰色の蝶という、独特の存在感を持っています。

ルリシジミに似ますが、翅の表裏は共に暗く、特に裏面のゴマ状の黒紋がより大きく、縁には薄墨色で不完全な輪が楕円状に並びます。

この両種の違いは慣れないと難しいですが、スギタニの方は年一回春に発生し、夏季に見かけた場合はルリシジミの方だと思います。

比較的よく目にするルリシジミとは異なり、スギタニは生息地が局地的です。

本種の食樹はトチノキで山地性の蝶と言っても、市街地等でも出会うことはありません。

ただ近年は、トチノキのない所にも分布を広げていると聞いています。

高尾で出会うのも四月の初～中旬が多く、派手さはありませんが、春を告げる清楚な自然の贈り物の感があります。

近年減少し、各地でレッドリストに載りつつありますが、渓谷にいますような爽やかさを感じさせる本種には毎年会いたいものです。

(文 松島 孝・撮影 佐伯 元行)